



DIGITAL PIANO

P - 1 2 5

P - 1 2 1

取扱説明書

準備編

本編

資料



# もくじ

こんなことができます	3
取扱説明書について	5
鍵盤を使った操作について	5
付属品(お確かめください)	5
安全上のご注意	5

## 準備編

各部の名前と機能	9
ご使用前の準備	10
電源の準備	10
電源を入れる/切る	10
オートパワーオフ機能	10
音量(マスターボリューム)を調節する	11
設定のお知らせ音	11
ヘッドフォンを使う	11
フットスイッチを使う(サステイン)	12
別売のペダルユニットを使う	12

## 本編

音色を選んで弾く	13
音色を選ぶ	13
テーブルEQを使う	13
より音量感のあるサウンドで演奏する(サウンドブースト)	13
2つの音色を重ねる(デュアル)	14
オクターブシフト(P-121のみ)	14
右手と左手で違う音色を弾く(スプリット)	15
二人で一緒に弾く(デュオ)	15
メトロノームを鳴らす	16
現在のテンポの値を音声(英語)で読み上げる	16
テンポの設定	16
拍子を設定する	16
音量の設定	16
その他演奏に関する設定をする	17
チューニング、トランスポーズ	17
リバーブ、タッチ感度	17

曲(ソング)を再生する	18
音色デモ曲を聞く	18
クラシック名曲50選または外部ソングを聞く	18
最初の発音からすぐにスタートする(クイックプレイ)	19
曲に合わせて演奏する(パート再生)	19
演奏に伴奏を付ける(リズム)	20
音量の設定	20
テンポの設定	20
演奏を録音する	21
かんたん録音	21
パートごとに録音する	21
ユーザーソングを削除する	22
ユーザーソングの設定を書き換える	22
他の機器と接続する	23
外部スピーカーを使う	23
スマートデバイスと接続する	23
コンピューターと接続する	23
オーディオデータを再生/録音する (USBオーディオインターフェース機能)	24
バックアップと初期化	24
資料	
困ったときは	25
仕様	25
音色リスト(詳細版)	26
索引	27
リスト	28

## こんなことができます

- ◆グレードハンマースタンド(GHS)鍵盤を搭載。アコースティックピアノを弾いているような、本格的なピアノ演奏が楽しめます。
- ◆クラシック名曲50選を内蔵。鑑賞したり、右手または左手パートをオフにして練習したりできます。(→18、19ページ)
- ◆演奏を華やかに彩る「リズム」(自動伴奏機能)を使って、手軽にアンサンブルが楽しめます。(→20ページ)
- ◆録音機能やメトロノーム機能を使って、練習を楽しく効率的に進められます。(→16、21ページ)
- ◆お使いのスマートデバイスにアプリ「スマートピアニスト」(無料)をインストールすると、さまざまな機能をより簡単にお楽しみいただけます。(→23ページ)

このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
 この楽器は、高品位な音とタッチで演奏をお楽しみいただける電子ピアノです。この楽器に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、本書をよくお読みになってからご使用ください。  
 また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますようお願いいたします。

## 取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

### 冊子マニュアル



#### 取扱説明書(本書)

この楽器の機能や使い方を説明しています。



#### クイックオペレーションガイド

ボタンや鍵盤に割り当てられた機能の一覧表です。

### 電子マニュアル (PDF形式)



#### iPhone/iPad接続マニュアル

この楽器をiPhoneやiPadなどのスマートデバイスと接続する方法を説明しています。



#### コンピューターとつなぐ

この楽器とコンピューターを接続する方法や、データを送受信する方法などを説明しています。



#### MIDIリファレンス

この楽器のMIDIに関する資料を掲載しています。



#### MIDI入門

MIDIについての基礎知識を説明しています。

電子マニュアルは、ヤマハのウェブサイトからご覧いただけます。以下のウェブサイトで「取扱説明書」をクリックし、モデル名を入力して検索してください。

#### サポート・お問い合わせ

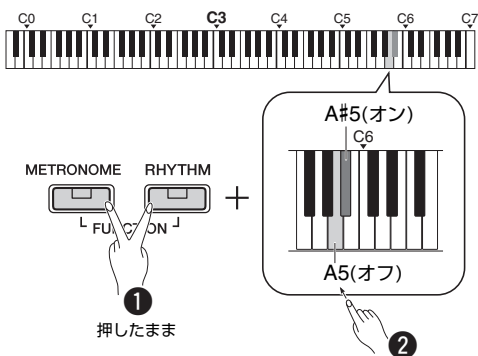
<https://jp.yamaha.com/support/>

お買い上げの品番の末尾には、「B」、「WH」などアルファベットが記載されています。これは、「B」がブラック、「WH」がホワイトなど色の情報を表しています。この取扱説明書では、品番の末尾のアルファベットは省略しています。別売品のキーボードスタンド、ペダルユニットの品番についても同様です。

## 鍵盤を使った操作について

この楽器は、ボタンを押したまま、鍵盤を押すことで、機能をオン/オフしたり、ソングを再生させたりできます。

※イラストはP-125です。



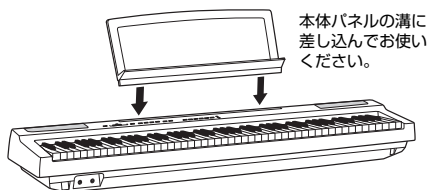
上のようなイラストが出てきたら、イラストと同じボタンを押したまま、鍵盤を1つ押します。最後にボタンから指を離します。

### 例

- ① [METRONOME]と[RHYTHM]を押したまま指を離さずに、
- ② 鍵盤を1つ短く押す  
最後に[METRONOME]と[RHYTHM]の指を離す

### 付属品(お確かめください)

- 取扱説明書(本書) ×1
- クイックオペレーションガイド ×1
- クラシック名曲50選(楽譜集) ×1
- 保証書 ×1
- フットスイッチ ×1
- 電源アダプター ×1
- 製品ユーザー登録のご案内 ×1
- 譜面立て ×1



# 安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

## ■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



### 警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



### 注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

## 電源アダプターについて



### 警告



禁止

ヤマハ製電子楽器以外に使用しない。

電源アダプターは、ヤマハ製電子楽器専用です。他の用途には、ご使用にならないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。



禁止

電源アダプターは、室内専用のため屋外及び水滴のかかる環境では、使用しない。また、水の入った物、花瓶などを機器の上に置かない。内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



### 注意



必ず実行

製品は電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

# 警告

## 電源 / 電源アダプター



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの（25ページ）を使用する。

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

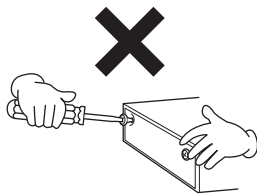


禁止

## 分解禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



## 水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

## 火に注意



禁止

本体の上でろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

## 異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

# ⚠ 注意

## 電源 / 電源アダプター



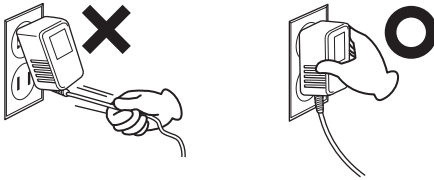
禁止

たこ足配線をしない。  
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。  
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。  
感電や火災、故障の原因になることがあります。

## 設置



禁止

不安定な場所に置かない。  
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がかげをしったりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。  
コードをいためたり、お客様やほかの方々がかげをしったりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。  
電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

指定のスタンドを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。  
本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

## 接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。  
感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。  
聴力障害または機器の損傷の原因になります。

## 取り扱い



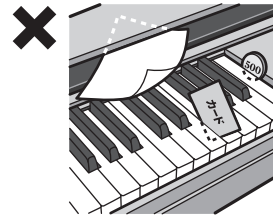
禁止

本体のすき間に手や指を入れない。  
お客様がかげがをするおそれがあります。



禁止

パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。  
感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。  
本体が破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしったりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。  
聴覚障害の原因になります。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[o](スタンバイ / オン) スイッチを切った状態 (電源ランプが消えている) でも微電流が流れています。[o] (スタンバイ / オン) スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

## 注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

### ■ 製品の取り扱いに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。iPhone、iPad、iPod touchなどのスマートデバイスのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためiPhone、iPad、iPod touchなどのスマートデバイスの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所 (日中の車内など) やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃~40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。

### ■ 製品のお手入れに関する注意

- 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色 / 変質する原因になりますので、使用しないでください。

### ■ データの保存に関する注意

- この楽器の一部のデータ(24ページ)は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、コンピューターなどの外部機器に保存してください(23ページ)。

この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

## お知らせ

### ■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録 / 録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されていません。
  - ※ 上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVE データ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。
  - ※ 上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行ない、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

### ■ 製品に搭載されている機能 / データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

### ■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- iPhone、iPad、iPod touchは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

### ■ 調律について

- 調律の必要はありません。電源を入れるといつでも正しいピッチ(音の高さ)でお使いいただけます。

機種名 (品番)、製造番号 (シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

---

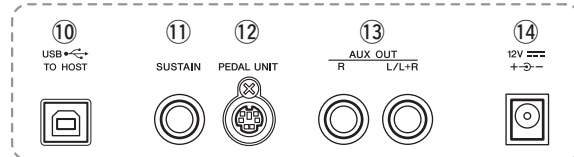
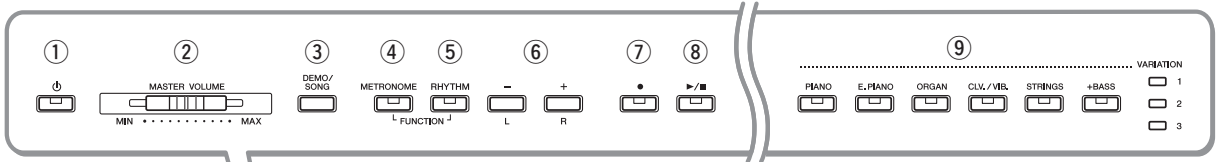
製造番号

---

(bottom\_ja\_02)

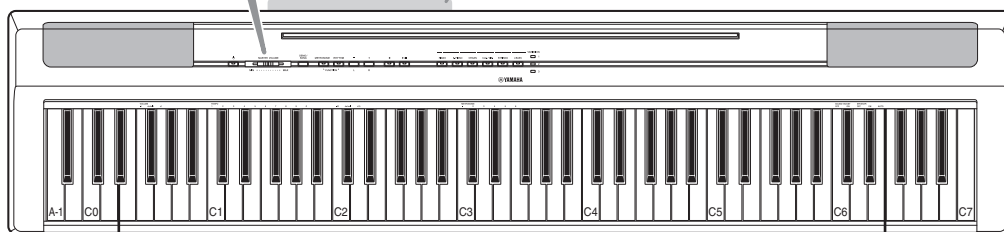


# 各部の名前と機能



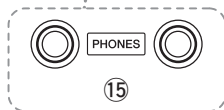
本体背面(後ろから見た図です)

※イラストはP-125です。



P-121

P-125とP-121は鍵盤数が異なります。P-125は88鍵、P-121は73鍵です。



## 内蔵スピーカー

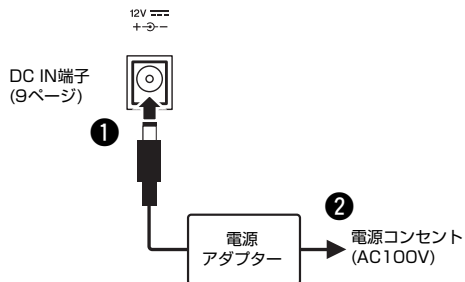
この楽器のスピーカーは底面(鍵盤裏側)に装備されています。より良いサウンドをお楽しみいただくためにも、別売の専用スタンドを使うことをおすすめします。机やテーブルに置いて演奏する場合は、テーブルEQ(13ページ)をオンにしてください。

- |   |  |
|---|--|
| <p>① [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチ ..... 10ページ<br/>電源のスタンバイ/オンを切り替えます。</p> <p>② [MASTER VOLUME] スライダー ..... 11ページ<br/>音量を調節します。</p> <p>③ [DEMO/SONG] ボタン ..... 18ページ<br/>デモ曲やピアノ曲を聞くことができます。</p> <p>④ [METRONOME] ボタン ..... 16ページ<br/>メトロノームを鳴らします。</p> <p>⑤ [RHYTHM] ボタン ..... 20ページ<br/>リズムを鳴らします。</p> <p>⑥ [-][+], [L][R] ボタン .. 15~16, 18, 22ページ<br/>テンポを設定したり、再生中のデモ曲/内蔵曲を切り替えたり、録音/再生のパートを選択したりします。</p> <p>⑦ [●] (録音) ボタン ..... 21ページ<br/>演奏を録音します。</p> <p>⑧ [▶/■] (再生/停止) ボタン ..... 21ページ<br/>録音した演奏(ユーザーソング)を再生したり、ソングを停止します。</p> | <p>⑨ 音色ボタン ..... 13ページ<br/>鍵盤の音色を選びます。<br/>グランドピアノをはじめとした音色を選択したり、2つの音色を重ねて使うために選択したりできます。</p> <p>⑩ [USB TO HOST] 端子 ..... 23ページ<br/>コンピューターやiPhone、iPadなどのスマートデバイスと接続します。</p> <p>⑪ [SUSTAIN] 端子 ..... 12ページ<br/>付属のフットスイッチや、別売のフットスイッチ/ペダルを接続します。</p> <p>⑫ [PEDAL UNIT] 端子 ..... 12ページ<br/>別売のペダルユニットを接続します。</p> <p>⑬ AUX OUT [R][L/L+R] 端子 ..... 23ページ<br/>オーディオ機器へのステレオ/モノラル出力用端子です。</p> <p>⑭ DC IN 端子 (12V) ..... 10ページ<br/>付属の電源アダプターを接続します。</p> <p>⑮ [PHONES] 端子 ..... 11ページ<br/>ヘッドフォンを接続します。</p> |
|---|--|

# ご使用前の準備

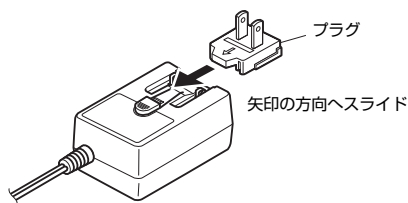
## 電源の準備

図の順序で電源アダプターを接続します。



### 警告

- 電源アダプターは、必ず指定のもの(25ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねることがございますので、十分にご注意ください。
- プラグが外れるタイプの電源アダプターは、必ずプラグを装着した状態で使用、または保管してください。プラグ部分だけをコンセントに差し込むと、感電や火災の原因になります。
- プラグが外れた場合は、内部の金属部分に触れないように注意して、カチッと音がするまで完全に差し込んでください。また異物が入らないようにご注意ください。感電やショート、故障の原因になります。



### 注意

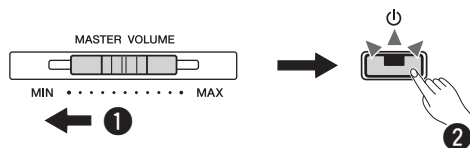
- 本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

### NOTE

- 電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行なってください。

## 電源を入れる/切る

- [MASTER VOLUME]で音量を最小にします。
- [ $\text{⏻}$ ] (スタンバイ/オン) スイッチを押して電源を入れます。



電源が入ると、[ $\text{⏻}$ ] (スタンバイ/オン) スイッチのランプが点灯します。音量は鍵盤を弾いて確かめながら、徐々に上げてください。

- 電源を切るには、もう一度[ $\text{⏻}$ ] (スタンバイ/オン) スイッチを押します(1秒)。

### 注意

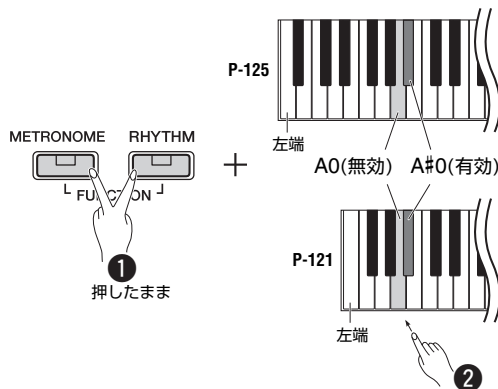
- 電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

## オートパワーオフ機能

電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐための機能です。この機能により、30分何も操作しないと自動的に電源が切れるようになっています。

### オートパワーオフ機能を有効/無効にする

初期設定：有効



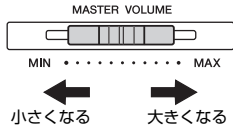
電源が切れた状態で左端の鍵盤を押したまま電源を入れても、オートパワーオフが無効になります。この場合、[●](録音)ランプが3回点滅します。

### 注記

- アンプ、スピーカー、コンピューターなどの外部機器を本体に接続した状態で、一定時間本体を操作しない場合は、外部機器損傷を防ぐために取扱説明書の手順に従って外部機器と本体の電源を切ってください。接続した状態で自動的に電源が切れるのを避けたい場合は、オートパワーオフを無効にしてください。

## 音量(マスターボリューム)を調節する

鍵盤を弾いて音を出しながら、[MASTER VOLUME]で全体音量を調節します。



### 注意

- 大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

## インテリジェント・アコースティック・コントロール (IAC)

IACとは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。IACは、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。

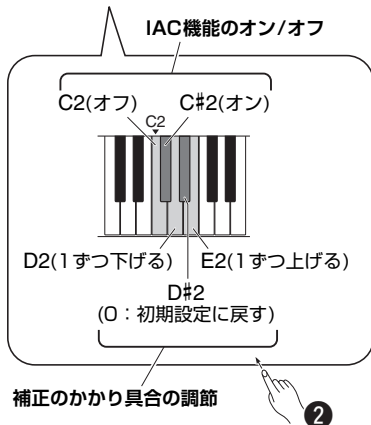
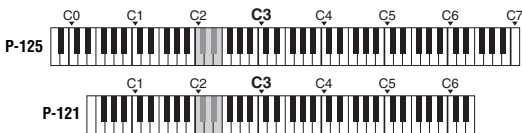
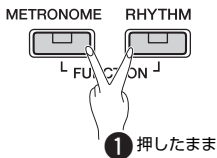
### ●IAC機能のオン/オフ

初期設定：オン

### ●補正のかかり具合の調節

設定範囲：-3~0~+3

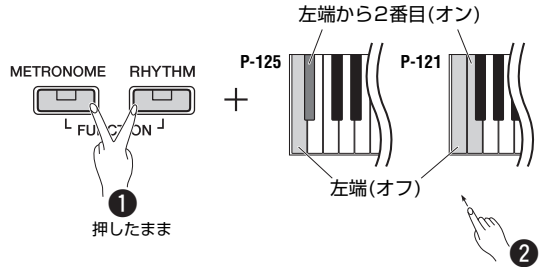
初期設定：0



## 設定のお知らせ音

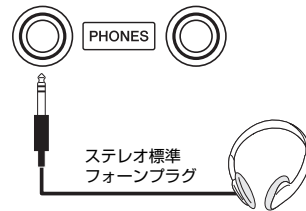
ボタンと鍵盤を使って設定を変更したときに、お知らせ音(「オン」、「オフ」、クリック音、テンポの入力数値)が鳴ります。このお知らせ音を鳴らす(オン)、鳴らさない(オフ)を設定できます。

初期設定：オン



## ヘッドフォンを使う

ヘッドフォンは[PHONES]端子に接続して使います。端子は2つあるので、2台同時に使えます。1台だけ使う場合はどちらの端子を使ってもかまいません。



### 注意

- 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

## 音の距離感を再現する(ステレオフォニックオプティマイザー)

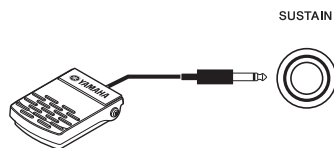
初期設定：オン

ヘッドフォン時、ピアノ本体から音が鳴っているような自然な距離感を感じることができる機能です。

### ステレオフォニックオプティマイザーのオン/オフ

[PIANO]を押したままF3の鍵盤を押すとオフ、F#3の鍵盤を押すとオンになります。

## フットスイッチを使う(サステイン)



付属のフットスイッチを[SUSTAIN]端子に接続すると、ピアノのダンパーペダルと同様、フットスイッチを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。また、別売のフットペダルFC3A、フットスイッチFC4A、FC5も接続できます。FC3Aではハーフペダル機能が使えます。

### ダンパーレゾナンス

ピアノ音色を選んでフットスイッチを踏むと、アコースティックピアノでダンパーペダルを踏んだ際の弦の共振効果を、ダンパーレゾナンスエフェクトとサステインサンプリングという2つの方法の組み合わせで再現します。

これらの効果は[PIANO]を押ししたままC3の鍵盤を押すとオフ、C#3の鍵盤を押すとオンになります。

初期設定：オン

#### NOTE

- ・デュオ中(15ページ)は、ダンパーレゾナンスは使えません。

### ハーフペダル機能(FC3A接続時/ペダルユニット接続時)

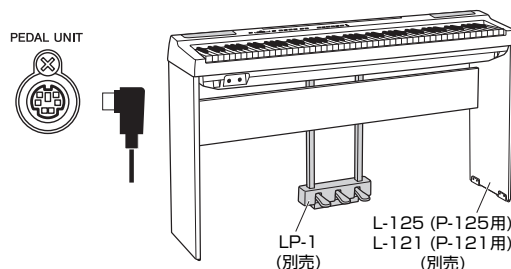
ペダルの踏み加減で音の伸び具合を調節できる機能です。ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える(音の濁りを減らす)ことができます。

#### NOTE

- ・フットスイッチ/フットペダルのケーブルの抜き差しは、電源を切った状態で行なってください。
- ・フットスイッチ/フットペダルを踏んだまま電源を入れないでください。フットスイッチ/フットペダルのオン/オフが逆になります。

## 別売のペダルユニットを使う

別売りのペダルユニットLP-1を[PEDAL UNIT]端子に接続すると、3本ペダルを使って演奏できます。ペダルユニットは、必ず専用スタンドに取り付けてお使いください。P-125用スタンドはL-125、P-121用スタンドはL-121です。



#### NOTE

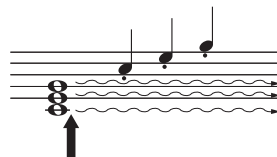
- ・ペダルユニットのケーブルの抜き差しは、電源を切った状態で行なってください。

### ダンパーペダル(右のペダル)

ペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。ダンパーレゾナンス対応です(左記参照)。ペダルを踏み込むほど音が長く伸びます(ハーフペダル対応)。

### ソステヌートペダル(まん中のペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけが、鍵盤から指を離しても長く響きます。ペダルを踏んだ状態で弾いた音に対しては機能しないので、「和音を長く鳴らしながらメロディーをスタッカートで弾く」といったことができます。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが、ペダルを踏んでいる間響く

### ソフトペダル(左のペダル)

このペダルを踏んだあとに弾いた鍵盤の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくします。ペダルを踏んでいる間は効果が持続します。ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前にペダルを踏みます。

#### NOTE

- ・ジャズオルガンの音色を選ぶとロータリースピーカーの回転の速い/遅いの切り替え、ビブラフォンの音色を選ぶとビブラートのオン/オフ機能に切り替わります。

# 音色を選んで弾く

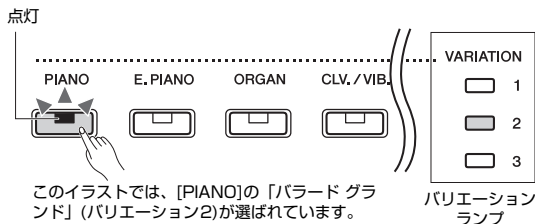
鍵盤を弾いたときに鳴る楽器音(ピアノやオルガンなど)を選びます。

## 音色を選ぶ

この楽器に内蔵されたさまざまな音色は、グループ別に分けられ、音色ボタンの中に入っています。

### 1 音色ボタン(9ページ)を押します。

グループ内の音色の1つが選ばれます。鍵盤を弾いて音を出してみましょう。



このイラストでは、[PIANO]の「バラード グランド」(バリエーション2)が選ばれています。

バリエーションランプ

同じボタンを押すたびにグループ内の音色を順番に選べます。以下の「音色リスト」をご参照ください。グループの先頭の音色を選んだときは、バリエーションランプは消灯し、バリエーション1~3の音色を選んだときは、同じ数字のバリエーションランプが点灯します。

#### NOTE

- 別の音色ボタンを押すと、前回そのボタンで最後に選んだ音色が選ばれます。電源を切ると各ボタンの先頭の音色にリセットされます。
- [+BASS]を押すと「スプリット」機能がオンになります。詳しくは15ページをご覧ください。

#### 音色リスト

音色ボタン (グループ)	音色名	バリエーション
PIANO	グランドピアノ	
	ライブ グランド	1
	バラード グランド	2
	ブライト グランド	3
E.PIANO	ステージ エレピ	
	DX エレピ	1
	ピンテージ エレピ	2
	シンセ ピアノ	3
ORGAN	ジャズ オルガン	
	ロック オルガン	1
	オルガン プリンシパル	2
	オルガン トゥッティ	3
CLV./VIB.	ハーブシコード8'	
	ハーブシコード8'+4'	1
	クラビコード	2
	ビブラフォン	3
STRINGS	ストリングス	
	スロー ストリングス	1
	クワイア	2
	シンセ パッド	3
+BASS	アコースティック ベース	
	エレクトリック ベース	1
	ベース & シンバル	2
	フレットレス ベース	3

各音色の紹介は26ページ「音色リスト(詳細版)」をご参照ください。

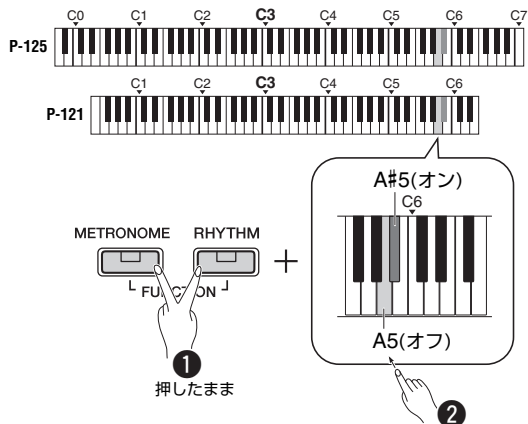
#### NOTE

- 各音色の特徴がよくわかる、音色ごとのデモソングが用意されています(18ページ)。

## テーブルEQを使う

この機能をオンにすると、楽器をテーブルに置いて使う場合に最適なサウンドになります。テーブルEQは、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。スタンドに設置している場合はオフにしてください。

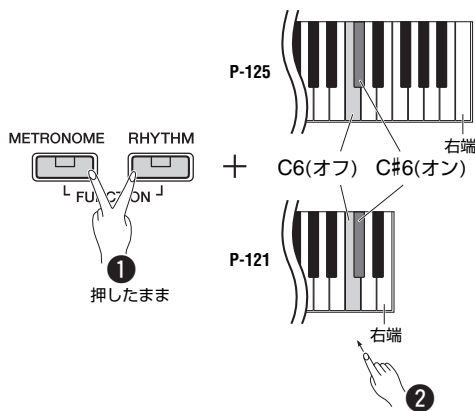
初期設定：オフ



## より音量感のあるサウンドで演奏する(サウンドブースト)

楽器の音量感をアップさせる機能です。強音だけでなく弱音まで、よりはっきり聞かせたい場合にオンにします。

初期設定：オフ



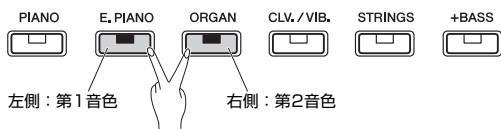
※ 鍵盤上部の印刷(SOUND BOOST OFF/ON)を参照してください。

## 2つの音色を重ねる(デュアル)

鍵盤を弾いたときに同時に2つの音色を重ねて鳴らします。重ねて鳴らすことにより、厚みのある音を作り出せます。

### 1 デュアルに入ります。

重ねたい音色をあらかじめ選んでおき、2つの音色ボタンを同時に押します。



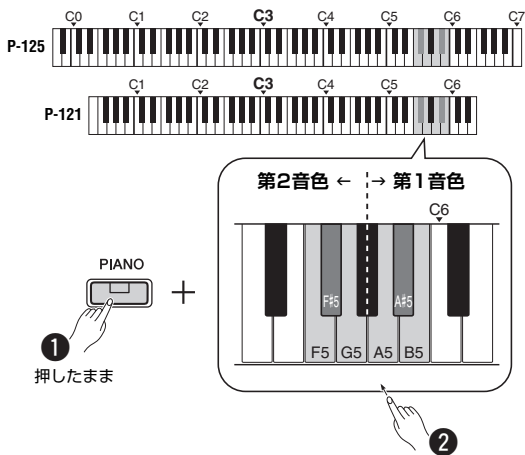
重ねる2つの音色のうち、左側のボタンの音色を第1音色、右側のボタンの音色を第2音色といいます。このとき、パリエーションランプは第1音色の状態を表わします。

**NOTE**

・同じグループの音色は重ねることができません。

### 2 2つの音色が重なったサウンドで、鍵盤を弾いてみましょう。

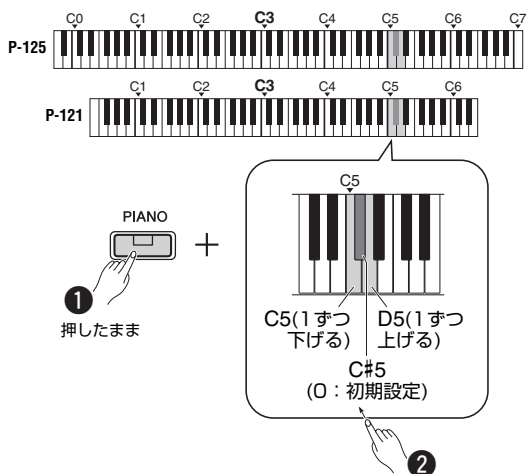
各音色のオクターブを上げる/下げる



第2音色	F5	1ずつ下げる	第1音色	A5	1ずつ下げる
	F#5	初期設定 (音色の組み合わせによる)		A#5	初期設定 (音色の組み合わせによる)
	G5	1ずつ上げる		B5	1ずつ上げる

設定範囲：-2~+2

### 2音色の音量バランスをとる



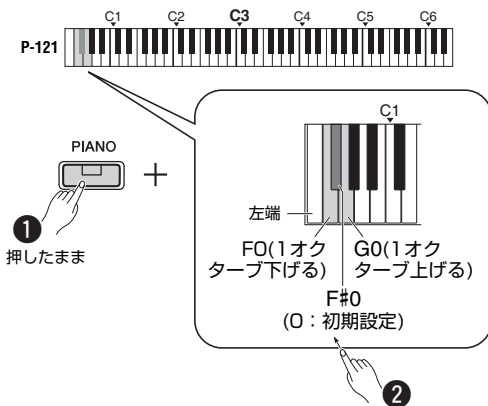
設定範囲：-6~0~+6

設定値が+6に近づくほど第1音色の音量が大きくなり、-6に近づくほど第2音色が大きくなります。

### 3 デュアルを解除するには、いずれかの音色ボタンを押します。

## オクターブシフト(P-121のみ)

鍵盤の音の高さを1オクターブずつ上げ下げできます。



設定範囲：-1~0~+1

**NOTE**

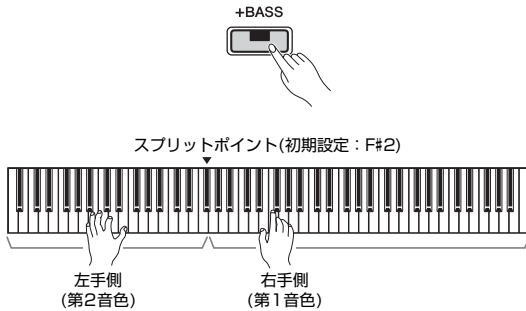
- ここでの設定値はデュアルのオクターブ設定値に加算されます。
- デュオまたはスプリットをオンにすると、オクターブシフトの設定値は解除されます。

## 右手と左手で違う音色を弾く(スプリット)

鍵盤を左右に分けて、左手と右手で別の音色で演奏できます。左手の演奏をアコースティックベースで鳴らし、右手のメロディーをグランドピアノで鳴らすなど、幅広い演奏表現ができます。

### 1 [+BASS]を押して、スプリットに入ります。

鍵盤の分かれ目(スプリットポイント)から左側がベース音色になります。弾いてみましょう。



#### NOTE

- デュアル、スプリット、デュオはいずれか1つしか選べません。
- 左手側がベース音色のときは、左手側にペダルユニットの右ペダルは効きません。
- スプリット時、バリエーションランプは左手側の状態を表します。

#### 左手側に別のベース音色を選ぶ

[+BASS]を押すたびにベース音色が順番に選べます。13ページ「音色リスト」をご参照ください。

#### 左手側にベース以外の音色を選ぶ

[+BASS]を押したまま、音色ボタンを何度か押して使いたい音色を選びます。

#### 各音色のオクターブを上げる/下げる

デュアルと同じです。(左記参照)

#### 2音色の音量バランスをとる

デュアルと同じです。(左記参照)

#### スプリットポイントの変更

[+BASS]を押したまま、スプリットポイントを設定したい鍵盤を押します。最低音から押した鍵盤までが左手側となります。

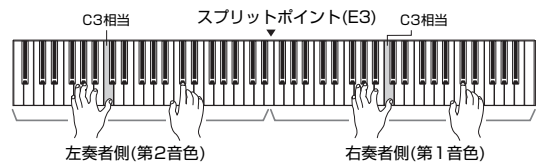
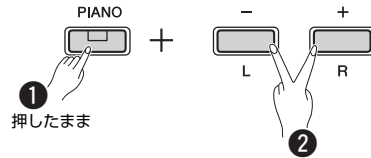


### 2 スプリットを解除するには、いずれかの音色ボタンを押します。

## 二人で一緒に弾く(デュオ)

鍵盤を左右に分けて、同時に二人が同じ音域で演奏できます。1台の楽器で二人同時に演奏したり、二人並んで座り、一人がお手本を弾き、もう一人がそれを見ながら練習する、といった使い方ができます。

### 1 デュオに入ります。



E3がスプリットポイントとなり、鍵盤が左奏者側と右奏者側に分かれます。

#### NOTE

- 右奏者側(第1音色)と左奏者側(第2音色)で異なる音色は設定できません。
- デュオのスプリットポイントはE3から変更できません。
- デュアルがオンの状態で、デュオに入るとデュアルは解除されます。音色は第1音色になります。
- デュオをオンにするとリバーブ、ダンパーレゾナンス、ステレオフィニックオプティマイザーがオフになります。

### 2 左側鍵域と右側鍵域に分かれて、2人で演奏しましょう。

左側で弾いている音は、左のスピーカーから、右側で弾いている音は、右のスピーカーから出ます。

#### 音色を選ぶ

13ページの手順1をご参照ください。

#### 左右の鍵域のオクターブを上げる/下げる

デュアルの「各音色のオクターブを上げる/下げる」(14ページ)と同じ操作です。

#### 左右の鍵域の音量バランスをとる

デュアルの「2音色の音量バランスをとる」(14ページ)と同じ操作です。

### 3 デュオの解除は手順1と同じ操作です。

#### デュオ機能でのペダル効果

- ダンパーペダル：右側鍵域のダンパー効果
- ソステヌートペダル：左右両方のダンパー効果
- ソフトペダル：左側鍵域のダンパー効果



# メトロノームを鳴らす

メトロノームは、正確なテンポで練習するときに便利な機能です。

## 1 [METRONOME]を押すと、メトロノームがスタートします。

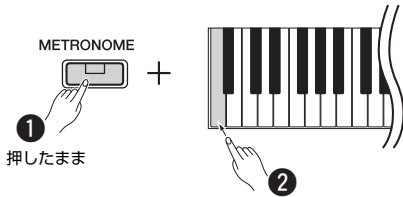


## 2 もう一度[METRONOME]を押すと、停止します。

### 現在のテンポの値を音声(英語)で読み上げる

[METRONOME]を押したまま一番左の鍵盤を押します。

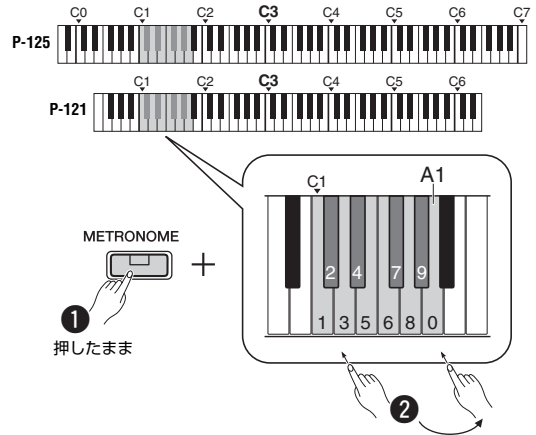
※イラストはP-125です。



### テンポを数値で設定する

たとえばテンポ80は、[METRONOME]を押したまま、対応する数字の鍵盤を、G1(8)→A1(0)の順番で押します。

入力したテンポ数値が音声(英語)で読み上げられます。



※ 鍵盤上部の印刷(TEMPO 1~9, 0)を参照してください。

## テンポの設定

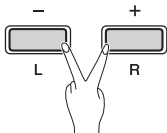
設定範囲：5~280(初期設定120)

### テンポを1ずつ増減する

メトロノームが鳴っているときに[-]または[+]を押します。メトロノームが止まっているときは、[METRONOME]を押したまま[-]または[+]を押します。



押し続けると値が連続して変わります



同時押しで初期設定に戻す

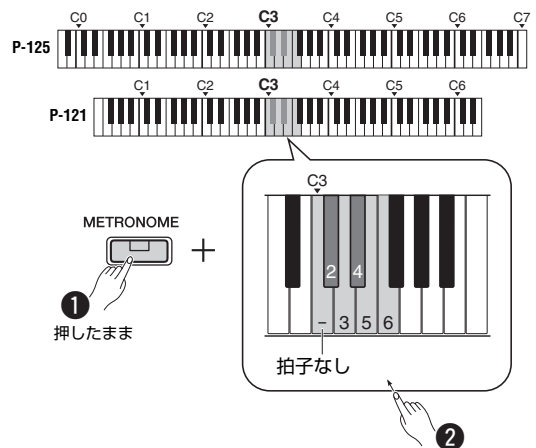
### テンポを10ずつ増減する

[METRONOME]を押したままC2(10ずつ上げる)、C#2(初期設定に戻す)、D2(10ずつ上げる)のいずれかの鍵盤を押します。

※ 鍵盤上部の印刷(TEMPO -10/default/+10)を参照してください。

## 拍子を設定する

設定範囲：-(初期設定：拍子なし)、2、3、4、5、6



※ 鍵盤上部の印刷(METRONOME --~6)を参照してください。

## 音量の設定

設定範囲：1~10(初期設定：7)

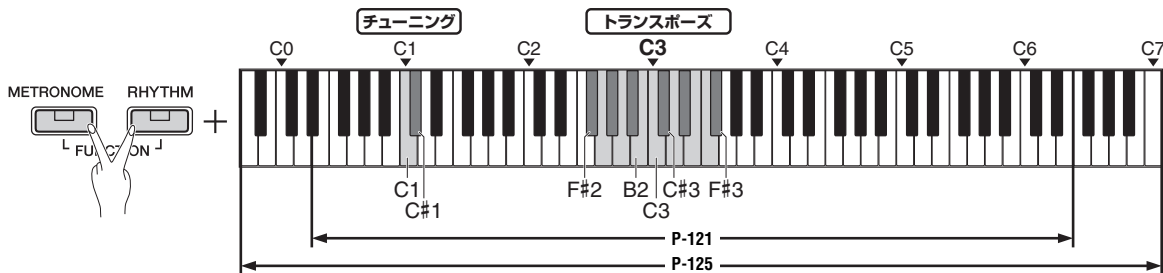
[METRONOME]を押したままF0(1ずつ下げる)、F#0(初期設定に戻す)、G0(1ずつ上げる)の鍵盤を押します。

※ 鍵盤上部の印刷(VOLUME -1/default/+1)を参照してください。



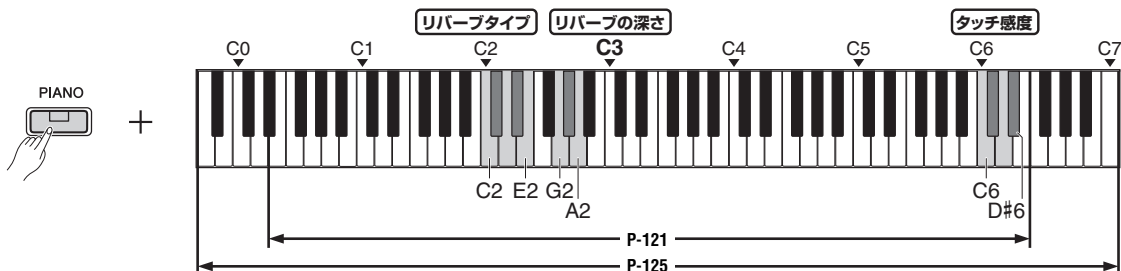
# その他演奏に関する設定をする

該当のボタンを押したまま、該当の鍵盤またはボタンを押すと下記の演奏に関する設定ができます。別紙「クイックオペレーションガイド」もご参照ください。



## チューニング、トランスポーズ

項目	説明	鍵盤	内容
音の高さを微調整する(チューニング)	楽器全体の音の高さを微調整します。ほかの楽器やCDなどと合わせて演奏する際に、音の高さを正確に合わせるができます。 [METRONOME]と[RHYTHM]を同時に押したまま、[+]または[-]を押すと、音の高さを0.2Hzずつ上げ下げでき、[+]/[-]を同時に押すと初期設定(440.0Hz)に戻ります。 設定範囲：414.8Hz~440.0Hz~466.8Hz	C1	音の高さをA3=440.0Hzに設定します。
		C#1	音の高さをA3=442.0Hzに設定します。
キー(調)を変える(トランスポーズ)	鍵盤を弾いたときの発音を、半音単位で上げたり下げたり(移調)します。たとえばトランスポーズを「+5」に設定すると、「ド(C)」の鍵盤を弾いたときに「ファ(F)」の音が出ることになり、「八長調」の弾き方で「へ長調」の演奏になります。 設定範囲：-6 (F#2)~0 (C3)~+6 (F#3)	F#2~B2	キーを下げます(実際の鍵盤よりも低い音を出す)。
		C3	元のキー(0)に戻します。
		C#3~F#3	キーを上げます(実際の鍵盤よりも高い音を出す)。



## リバーブ、タッチ感度

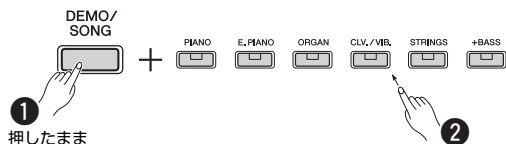
項目	説明	鍵盤	内容
リバーブタイプの設定	演奏音に、コンサートホールで弾いたような残響音(リバーブ)を加えます。音色を選ぶと、その音色に最適なリバーブが自動的に設定されますが、自分でリバーブの種類を設定できます。	C2	リサイタルホール：ピアノリサイタル向けの中規模ホールのクリアな響きになります。
		C#2	コンサートホール：オーケストラの公演が行なわれる、大きなホールの華やかな響きになります。
		D2	サロン：室内楽に適した、宮廷内の広間の落ち着いた響きになります。
		D#2	クラブ：ライブハウスやジャズクラブのメリハリのある響きになります。
リバーブの深さの調節	リバーブのかかり具合を調節します(手弾き音のみ有効)。 設定範囲：0~20	E2	オフ：リバーブはかかりません。
		G2	1ずつ減ります。
		A2	1ずつ増えます。
タッチ感度を変える	鍵盤を強く強さを変えたときの、音の強弱の付きかた(タッチ感度)を設定します。鍵盤の重さ自体は変わりません。 <b>[NOTE]</b> ・オルガン、ハーブシコードの音色ではタッチ感度による音の強弱は付きません。	C6	ソフト：軽いタッチで大きい音を出すことができます。
		C#6	ミディアム：標準的なタッチ感度です(初期設定)。
		D6	ハード：大きな音を出すためには、より強いタッチで弾いてください。
		D#6	フィックス(固定)：タッチの違いによる音の強弱は付かず、一定の音量で鳴ります。

# 曲(ソング)を再生する

## 音色デモ曲を聞く

音色の特徴をつかむために、音色ごとのデモ曲を聞いてみましょう。(ベース音色のバリエーション1~3にはデモ曲はありません)。

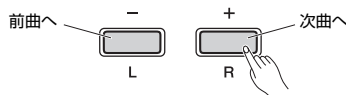
- [DEMO/SONG]を押したまま、音色ボタンを何度か押して聞きたい音色を選びます。**  
選択した音色のデモ曲から順に再生されます。再生中に音色を選ぶ(13ページ)とデモ曲が切り替わります。



### NOTE

- ・[DEMO/SONG]だけを押した場合は、グランドピアノのデモ曲から順に再生されます。

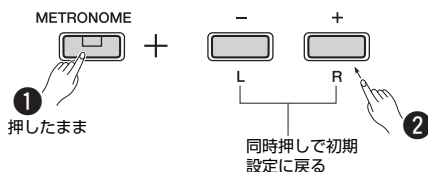
## 再生中に前曲/次曲に切り替える



## 曲の最初から再生する

曲の再生中、[-]と[+]を同時に押すと、曲の先頭から再生します。

## 再生中のテンポ変更



[METRONOME]を押したまま、[-]または[+]を押しているあいだテンポが変わり続けます。

## デモ曲リスト

音色名	曲名	作曲家
バラード グランド	6つの小品 第2番 間奏曲 op.118-2	J. プラームス
オルガン プリンシパル	オルガン小曲集「神のひとり子なる主キリスト」BWV 601	J.S.バッハ
オルガン トゥッチェ	トリオ ソナタ 第6番 BWV 530	J.S.バッハ
ハーブシコード 8'	チェンバロ協奏曲 第7番 BWV 1058	J.S.バッハ
ハーブシコード 8'+4'	フランス組曲 第5番 ジーグ BWV 816	J.S.バッハ

上記デモ曲は、原曲を編集/抜粋したものです。その他のデモ曲は、ヤマハのオリジナルです。(© Yamaha Corporation)

- 再生を止めるには[DEMO/SONG]か▶/■を押します。**

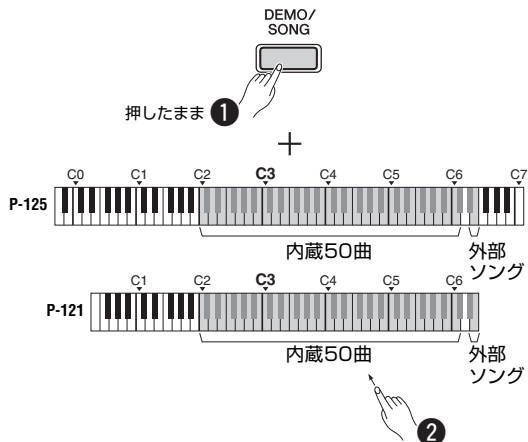
## クラシック名曲50選または外部ソングを聞く

この楽器には、デモ曲のほかにクラシック名曲50選の演奏データが入っています。付属の『クラシック名曲50選(楽譜集)』から好きな曲を選んで聞いてみましょう。曲名は28ページのリスト「クラシック名曲50選」でも確認できます。

また、コンピューターからこの楽器に転送した最大2曲の外部ソングも再生できます。外部ソングについては「コンピューターと接続する」(23ページ)をご覧ください。

- [DEMO/SONG]を押したまま聞きたい曲の番号に該当する鍵盤を押すと、選んだ曲から順に再生します。**

クラシック名曲50選の鍵盤への割り当ては、別紙「クイックオペレーションガイド」をごらんください。



## 再生中に前曲/次曲に切り替える

デモ曲と同じです。(左記参照)

## 曲の最初から再生する

デモ曲と同じです。(左記参照)

## 再生中のテンポ変更

デモ曲と同じです。(左記参照)

- 再生を止めるには[DEMO/SONG]か▶/■を押します。**



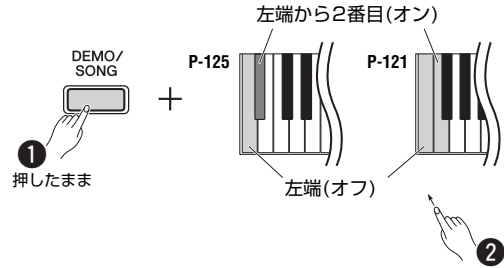
## 最初の発音からすぐにスタートする (クイックプレイ)

最初の音の前に空白がある曲(弱起の曲など)を再生する場合に、実際に音が鳴るところから再生するか(オン)、休符や空白を含めて曲のデータどおりに再生するか(オフ)を選びます。

初期設定：オン

### クイックプレイをオン/オフする。

[DEMO/SONG]を押したまま左端の鍵盤を押すとオフ、左端から2番目の鍵盤を押すとオンになります。



## 曲に合わせて演奏する(パート再生)

クラシック名曲50選(28ページ)およびユーザーソングは、LパートまたはRパートのどちらか一方をミュート(鳴らさない)して再生できます(音色デモ曲ではできません)。たとえば、「ピアノ曲のRパートをミュートしてLパートだけを聞きながら、右手のメロディーを自分で弾く」といったことができます。

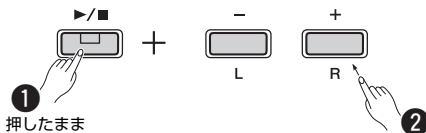
### 1 ソング再生をスタートします。

ユーザーソングをスタートする場合は、[▶/■](再生/停止)を押します。

ピアノ曲をスタートする場合は18ページ「クラシック名曲50選または外部ソングを聞く」をご覧ください。

### 2 ソング再生中、[▶/■]を押したまま、ミュートしたいパートのボタン[R]または[L]を押します。

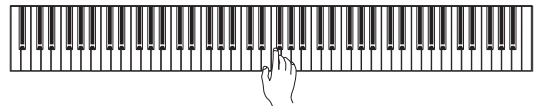
押すごとにミュートする/しないが切り替わります。



#### NOTE

・ユーザーソングに録音されたリズムはミュートできません。

### 3 鳴っているパートの再生を聞きながら、鳴らしていないパートを弾いて練習しましょう。



#### 連弾曲について

連弾曲(No.16~20)では、右手パートが第1奏者用、左手パートが第2奏者用です。

### 4 再生を止めるには、[DEMO/SONG]か[▶/■]を押します。

#### NOTE

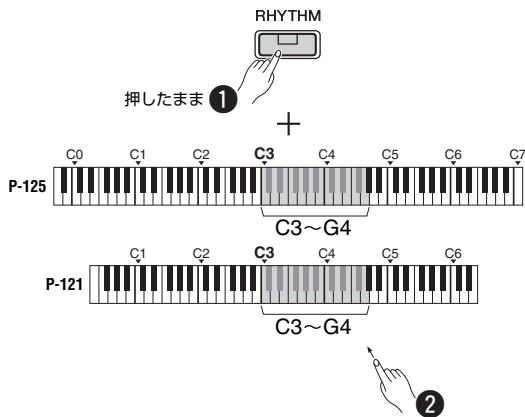
・曲を切り替えたり、停止すると、ミュートは解除されます。

# 演奏に伴奏を付ける(リズム)

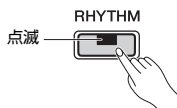
ポップスやジャズなど、音楽ジャンルに合ったリズム(打楽器音とベース音)が用意されています(28ページ)。好きなリズムと一緒に演奏しましょう。

## 1 [RHYTHM]を押したままC3~G4のどれかを押して、リズムを選びます。

リズムの鍵盤への割当は、別紙『クイックオペレーションガイド』をご覧ください。



## 2 [RHYTHM]を押すと、リズムの打楽器音がイントロからスタートします。



### NOTE

- ・ソング再生中にリズムをスタートした場合、イントロは再生されません。

### イントロ/エンディングのオン/オフの設定

リズムの始まりと終わりには、イントロ/エンディングが流れます。イントロ/エンディングは、鳴らす(オン)/鳴らさない(オフ)を選択できます。

[RHYTHM]を押したまま、F5(イントロオフ)、F#5(イントロオン)、G5(エンディングオフ)、G#5(エンディングオン)のいずれかの鍵盤を押します。

初期設定: オン

## 3 リズムと一緒に演奏します。



通常のピアノ両手演奏をするだけで、演奏中のコード(和音)を楽器が認識して、そのコードに合ったベース音が鳴ります。鍵盤は2音以下しか押さなくても、1つ前に押えたコードなどをもとに適切なコードを推定します。ただし、9thと11thと13thは認識されません。

### NOTE

- ・コードの押さえ方は、市販のコード表などをご参照ください。

### リズムのベース音のオン/オフ

[RHYTHM]を押したままC5(オフ)またはC#5(オン: 初期設定)の鍵盤を押します。

## 4 [RHYTHM]を押すとリズムが停止し、鍵盤が通常状態に戻ります。

### 音量の設定

設定範囲: 1~10 (初期設定: 7)

[RHYTHM]を押したままF0(1ずつ下げる)、F#0(初期設定に戻す)、G0(1ずつ上げる)の鍵盤を押します。

※鍵盤上部の印刷(VOLUME -1/default/+1)を参照してください。

### テンポの設定

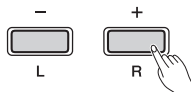
設定範囲: 5~280(初期設定: 120)

#### 現在のテンポの値を音声(英語)で読み上げる

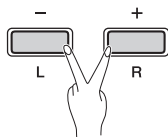
[RHYTHM]を押したまま一番左の鍵盤を押します。

#### テンポを1ずつ増減する

リズムが鳴っているときに[-]または[+]を押します。リズムが止まっているときは、[RHYTHM]を押したまま[-]または[+]を押します。



押し続けると値が連続して変わります



同時押しで初期設定に戻す

### NOTE

- ・リズムで設定したテンポは、メトロノームのテンポにも反映されます。

#### テンポを10ずつ増減する、テンポを数値で設定する

[RHYTHM]を押しながらメトロノームのテンポ設定(16ページ)と同じ鍵盤を押してください。

# 演奏を録音する

自分の演奏を録音し、ユーザーソング(SMFフォーマット)としてこの楽器に保存できます。LとRの2パートがあるので、パートごとの録音もできます。

## 注記

- 録音できるユーザーソングは1曲だけなので、録音により既存のデータは消えます。なお、録音データを保存しておきたい場合は、コンピューターにSMFファイル(USERSONG00.mid)として転送/保存しておきましょう。詳細は、4ページの電子ファイル『コンピューターとつなぐ』をご参照ください。
- 内部メモリーの残容量が少ない場合、録音待機状態に入るとき、[●] (録音)と[▶/■]のランプが3秒間素早く点滅します。この場合、録音されないことがあります。

## NOTE

- この楽器に録音できる容量は、100KB(およそ11,000音符)です。

## かんたん録音

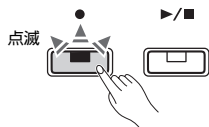
リズムも一緒に録音できます。

### 1 録音の前に、音色や拍子、テンポ(16ページ)、リズムなどを設定しておきます。

録音モードに入ってからでは設定できない項目もあるので、あらかじめ設定しておきます。

### 2 [●]を押して録音待機状態にします。

[●]ランプがテンポに合わせて点滅します。



録音を中止する場合は[●]を押します。

## NOTE

- ソング再生中は、[●]を押しても録音待機状態にはなりません。
- メトロノームを鳴らしながら録音できます。ただし、メトロノーム音は録音されません。

### 3 鍵盤を弾くか[▶/■]を押すと、録音が始まります。

リズムをスタートさせることでも録音を開始できます。



録音中



### 4 録音を停止するには、[●]または[▶/■]を押します。

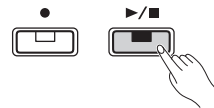
録音されたデータは内部メモリーに書き込まれます。内部メモリーへの書き込み中は[●]と[▶/■]のランプが点滅します。書き込みが終了すると[●]と[▶/■]のランプは消灯します。

## 注記

- 内部メモリーへの書き込み中([●]と[▶/■]のランプが点滅中)は電源を切らないでください。データが失われます。

## 5 録音した曲(ユーザーソング)を聞くには、[▶/■]を押します。

もう一度[▶/■]を押すと再生が停止します。



## かんたん録音した曲のパート内容

スプリット、デュオを設定している場合は、かんたん録音を行なうと、下表のようにLパート、Rパートに演奏が録音されます。

	Lパート	Rパート
スプリット、デュオ	左手側/左奏者側の演奏	右手側/右奏者側の演奏

## パートごとに録音する

LパートまたはRパートのどちらかを選んで録音できます。

## 注記

- すでに録音したデータがあるパートを選んで録音した場合、その前に録音されていたデータは上書きされ、消えてしまいます。

## NOTE

- スプリット、デュオを設定している場合は、パートを選んで録音することはできません。かんたん録音を行なってください。
- リズムはL/Rパートが空(データがない状態)でないと録音できません。リズムを録音したい場合は、最初に録音してください。

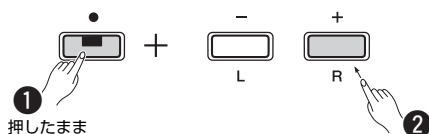
### 1 録音の前に、音色やテンポなどを設定しておきます。

### 2 [●]を押したまま、録音するパートのボタン([R]または[L])を押します。

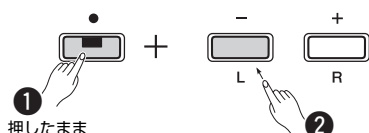
パート別録音の待機状態になります。

録音を中止する場合は[●]を押します。

## Rパートに録音する場合



## Lパートに録音する場合



録音待機状態になり、[●]ランプがテンポに合わせて点滅します。すでに録音データがある場合は[●]と[▶/■]がテンポに合わせて点滅します。

## もう一方のパートに、すでに録音したデータがある場合

録音を開始すると、録音済みデータのあるパートは再生されるので、それに合わせて演奏し録音できます。また、[▶/■]を押しながらこのパートのボタン[R]または[L]を押すことで、再生音のオン/オフを切り替えられます。

## NOTE

- 録音中にメトロノームを鳴らせますが、録音はされません。

## 3 鍵盤を弾くか[▶/■]を押すと、録音が始まります。

[●]ランプが点灯に変わり、[▶/■]ランプがテンポに合わせて点滅します。

## 4 録音を停止するには、[●]または[▶/■]を押します。

録音されたデータは内部メモリーに書き込まれます。内部メモリーへの書き込み中は[●]と[▶/■]のランプが点滅します。

書き込みが終了すると[●]と[▶/■]のランプは消灯します。

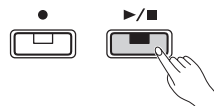
## 注記

- 内部メモリーへの書き込み中([●]と[▶/■]のランプが点滅中)は電源を切らないでください。データが失われます。

## 5 もう片方のパートに録音する場合は、上記手順1~4を繰り返します。

## 6 録音した曲(ユーザーソング)を聞くには、[▶/■]を押します。

もう一度[▶/■]を押すと再生が停止します。



## ユーザーソングを削除する

1 曲全体を削除します。

## 1 [●]を押したまま[DEMO/SONG]を押して削除待機状態にします。

[●]と[▶/■]のランプが交互に点滅します。削除を中止するには[●]を押します。

## 2 削除するには[▶/■]を押します。

削除が完了すると[●]と[▶/■]のランプが消灯します。

## パートを選んで削除する

## NOTE

- リズムは削除できません。

1 [●]を押したまま、消したいパートのボタン([R]または[L])を押して録音待機状態にします。[●]ランプがテンポに合わせて点滅します。

2 [▶/■]を押して録音を開始します。鍵盤は弾かないでください。

3 [●]または[▶/■]を押して録音をストップします。選択されたパートの全データが消去され、ランプが消灯します。

## ユーザーソングの設定を書き換える

以下の設定情報は、録音を終えた後でも変更できます。

## パートごとに設定できる情報

音色、音量バランス、リバーブの深さ、ダンパーレゾナンス

## ユーザーソング(L、Rパート共通)に設定する情報

テンポ、リバーブタイプ

1 パネル操作により、上記項目をそれぞれ書き換えたい内容に設定します。

2 [●]を押したまま[R]または[L]を押して、設定を書き換えるパートを選びます。

L、R両パートに共通して録音される情報は、どちらのパートを選んでも書き換えられます。

録音待機状態になり、[●]ランプがテンポに合わせて点滅します。

## 注記

- 録音待機状態で、[▶/■]または鍵盤を押さないでください。録音が始まり、すでにあるユーザーソングを消してしまいます。

3 [●]を押したまま[▶/■]を押すと、設定情報が書き込まれ、録音待機状態が解除されます。



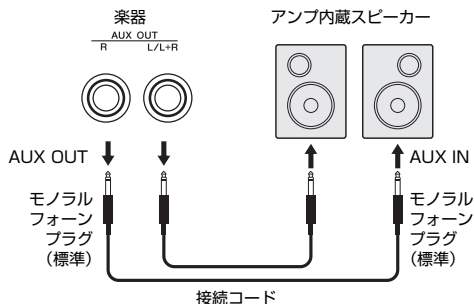
# 他の機器と接続する

## 注意

- 他の機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行なってください。また、電源を入/切する前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電、聴力障害または機器の損傷のおそれがあります。

## 外部スピーカーを使う

この楽器にアンプ内蔵スピーカーなどを接続して、より大きな音を出します。接続コードを使って図のように接続します。



## 注記

- スピーカー接続後は、楽器の電源を入れてから、外部機器の電源を入れてください。電源を切るときは、外部機器を切ってから、楽器の電源を切ってください。

## NOTE

- 接続ケーブルおよび接続プラグは抵抗のないものをお使いください。
- 本体音をモノラル信号で取り出すときは、[L/L+R]端子に接続してください。

## 本体スピーカーのオン/オフの設定

楽器本体のスピーカーから音を出す(オン)、出さない(オフ)を設定できます。

[METRONOME]と[RHYTHM]を同時に押したままD6(オフ)、D#6(オン)、E6(オート：ヘッドフォンが接続されると音を出さない)のいずれかの鍵盤を押します。

初期設定：オート

※ 鍵盤上部の印刷(SPEAKER OFF/ON/AUTO)を参照してください。

## 外部スピーカーの音量の調節

外部スピーカーから出力する音量を、楽器の[MASTER VOLUME]に連動して調節するか「連動」(オフ)、[MASTER VOLUME]とは連動せず、いつも固定の音量で再生するか「固定」(オン)設定します。設定は、[METRONOME]と[RHYTHM]を同時に押したままF5を押すと「連動」、F#5を押すと「固定」になります。

初期設定：連動(オフ)

## NOTE

- 「固定」に設定した場合、ヘッドフォンの音量も同じように固定された音量になります。

## スマートデバイスと接続する

iPhoneやiPadなどのスマートデバイスのアプリと楽器を一緒に使えば、さまざまな楽しい機能が使えようになり、可能性が広がります。


この楽器に対応するアプリやスマートデバイスに関する情報は、以下のウェブサイトにある各アプリのページでご確認ください。

<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

接続については、電子マニュアル(4ページ)「iPhone/iPad接続マニュアル」をご覧ください。

### スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」

「スマートピアニスト」(無料)を使用すると、スマートデバイスで音色選択やメトロノームなどを直感的に操作したり、譜面を表示したりできます。詳しくは、上記ウェブサイトの「スマートピアニスト」のページでご確認ください。

楽器とスマートデバイスの接続については、「スマートピアニスト」の接続ウィザードで、使用環境に応じた接続方法を確認できます。接続ウィザードを開始するには、「スマートピアニスト」の画面左上の「」(メニュー)をタップしてメニュー画面を開き、「楽器」→「接続ウィザードを開始する」を順にタップします。

この楽器はWi-fi接続には対応していませんので、ケーブルで接続してください。

## 注記

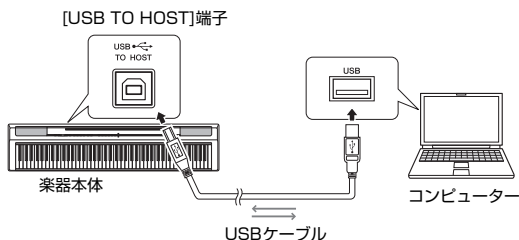
- 楽器とスマートデバイスを接続した状態で、「スマートピアニスト」を起動すると、楽器の設定が「スマートピアニスト」の内容で上書きされます。

## 注記

- DAW(Digital Audio Workstation)などの音楽制作用アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバック(24ページ)をオフにしてご使用ください。

## コンピューターと接続する

USBケーブルを使って楽器の[USB TO HOST]端子とコンピューターを接続すると、コンピューターとMIDIデータをやり取りしたり、オーディオデータをやり取りしたり(USBオーディオインターフェース機能)、コンピューター用の音楽ソフトを楽しんだりできます。コンピューターとの接続方法やデータの転送方法など、詳しくは電子マニュアル「コンピューターとつなぐ」(4ページ)をご覧ください。



**注記**

- USBケーブルは、ABタイプのもをご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。

**コンピューターと送受信できるファイル**

- ユーザーソング (USERSONG00.mid)
- 外部ソング：拡張子が.midのMIDIソングファイル (SMFフォーマット0、フォーマット1)

**注記**

- コンピューターから楽器本体にユーザーソングを転送すると、楽器本体のユーザーソングは消えてしまいます。必要に応じて本体のユーザーソングをコンピューターに転送しておきましょう。

**NOTE**

- SMFフォーマット0や1のデータでも、この楽器が対応しないデータを含む場合は、データどおりに再生できません。

**オーディオデータを再生/録音する (USBオーディオインターフェース機能)**

スマートデバイスやコンピューターにあるオーディオデータを楽器で再生できます。また音楽制作用のソフトを使用すれば、楽器の演奏をオーディオデータとして録音できます。

Windows搭載のコンピューターで使用する場合は、Yamaha Steinberg USB Driverをコンピューターにインストールする必要があります。詳しくは、4ページの電子マニュアル「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

**オーディオールバック**

[USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音を、楽器の演奏音に重ねて再度コンピューターなどへ出力する(オン)かしない(オフ)かを設定できます。

[METRONOME]と[RHYTHM]を同時に押したまま、G5(オフ)またはG#5(オン：初期設定)の鍵盤を押します。

**注記**

- DAW(Digital Audio Workstation)などの音楽制作アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオールバックをオフにしてご使用ください。

# バックアップと初期化

以下の設定やデータは自動的にバックアップされるので、電源を切っても消えません。

- **ユーザーソング**
- **外部ソング**
- **バックアップデータ：**

メトロノーム/リズム音量、メトロノーム拍子、タッチ感度、チューニング、スプリットポイント、オートパワーオフ機能、IAC オン/オフ、IAC補正のかかり具合、イントロ/エンディング オン/オフ、鍵盤操作音 オン/オフ、AUX OUT音量設定、ステレオフットリフティマイザー オン/オフ、スピーカー オン/オフ、テーブルEQオン/オフ

**ユーザーソングをコンピューターに保存する**

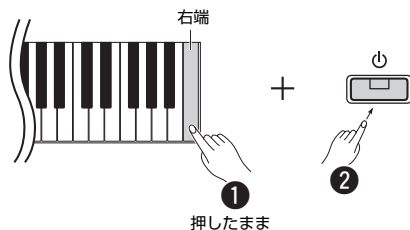
ユーザーソング (USERSONG00.mid)はコンピューターに転送しスタンダードMIDIファイル(SMF)として保存ができます。詳細は、電子マニュアル「コンピューターとつなぐ」(4ページ)をご覧ください。

**バックアップデータを初期化する**

バックアップデータを工場出荷時の状態に戻すことを「初期化」といいます。

右端の鍵盤を押したまま[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入ると、初期化されます。

※イラストはP-125です。



初期化実行中は[●]と[▶/■]のランプが点滅します。初期化が終了すると[●]と[▶/■]のランプは消灯します。

**NOTE**

- 本機が正常に動作しない場合、初期化を試してみてください。



# 困ったときは

現象	原因と解決方法
[⏻](スタンバイ オン/オフ)を押して電源を入れたとき、または切ったとき、ボツンという音がする。	故障ではありません。本体に電流が流れるためです。
電源が入らない。	電源アダプターは正しく接続されていますか。電源アダプターを本体とコンセントに確実に差し込んでください。(→10ページ)
[⏻](スタンバイ オン/オフ)を押して電源を入れてもすぐに切れる。	故障ではありません。指定以外の電源アダプターを使用すると、電源を入れてもすぐに切れる場合があります。
電源が自動的に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能が働いたためです。オートパワーオフ機能を使いたくない場合は、機能を無効にしてください。(→10ページ)
スピーカー/ヘッドフォンから雑音が出る。	楽器の近くで携帯電話を使用していないですか。携帯電話の電源を切るか楽器から離れて使用してください。
iPhone/iPad/iPod touchのアプリケーションと楽器を一緒に使っているとき、本体スピーカーやヘッドフォンから雑音(ノイズ)が出る。	iPhone/iPad/iPod touchの機内モードをオンにしてご使用ください。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	[MASTER VOLUME]が下がっていませんか。上げてみてください。(→11ページ)
	本体スピーカーの設定がオフになっていませんか。(→23ページ)
	[PHONES]端子にヘッドフォン、または変換アダプターが接続されていませんか。(→11ページ)
	ローカルコントロールの設定がオンになっていますか。(4ページの電子マニュアル「MIDIリファレンス」参照)
[MASTER VOLUME]で音量を変えても、ヘッドフォンの音量が変わらない。	外部スピーカーの音量を「固定」に設定していませんか。「連動」に設定してください。(→23ページ)
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。異常ではありません。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	異常ではありません。ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[SUSTAIN]端子/[PEDAL UNIT]端子に確実に接続されているか確認してください。(→12ページ)
フットスイッチ(サステイン)のオン/オフが逆になった。(フットスイッチを踏むと音がカットされ、離すとサステインが効く)	フットスイッチを踏みながら電源を入れたため、フットスイッチの極性が逆になっています。電源を切り、フットスイッチを踏まずに、もう一度電源を入れ直してください。

## 仕様

### 寸法[幅×奥行×高さ]

- ・P-125: 1326×295×166 (mm)
- ・P-121: 1114×295×166 (mm)

### 質量

- ・P-125: 11.8 kg
- ・P-121: 10.0 kg

### 鍵盤

- ・P-125: 88鍵(A-1~C7)
- ・P-121: 73鍵(E0~E6)
- ・グレードハンマースタンド(GHS)鍵盤黒鍵マット仕上げ
- ・タッチ感度: ハード/ミディアム/ソフト/フィックス

### 音源/音色

- ・ピアノ音: RGE スタンダードⅢ音源
- ・ピアノ音源の効果: ダンパーレゾナンス、サステインサンプリング、キーオフサンプリング、ストリングレゾナンス
- ・最大同時発音数: 192
- ・音色数: 24

### 効果/機能

- ・リバーブ: 4種類、サウンドブースト、テールEQ、インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)、ステレオフォニックオプティマイザー、デュアル、スプリット、デュオ

### 伴奏リズム

- ・プリセット: 20

### 録音/再生(MIDIソング)

- ・プリセット: 音色デモ21曲 + クラシック50曲
- ・録音曲数: 1曲
- ・録音トラック数: 2
- ・録音データ容量: 1曲約100KB(約11,000音符)
- ・フォーマット:
  - 再生: SMF (フォーマット0、フォーマット1)
  - 録音: SMF (フォーマット0)

### 内蔵メモリー

- ・約900KB: ユーザーソング1曲(最大約100KB) + 外部ソング最大2曲

### ファンクション

- ・トランスポーズ: -6~0~+6
- ・オクターブシフト(P-121のみ): -1~0~+1
- ・チューニング: 414.8Hz~440.0Hz~466.8Hz
- ・メトロノーム
- ・テンポ: 5~280
- ・USBオーディオインターフェース機能

### 接続端子

- ・DC IN (12V)端子、PHONES端子(ステレオ標準フォーン)×2、SUSTAIN端子、PEDAL UNIT端子、USB TO HOST端子、AUX OUT端子

### メインアンプ

- ・7W × 2

### スピーカー

- ・12 cm × 2 + 4 cm × 2

### 電源

- ・電源アダプター: PA-150Bまたはヤマハ推奨の同等品
- ・消費電力: 9 W (電源アダプター PA-150B 使用時)
- ・オートパワーオフ機能

### 付属品

- ・保証書、取扱説明書(本書)、クイックオペレーションガイド、クラシック名曲50選(楽譜集)、電源アダプター(PA-150Bまたはヤマハ推奨の同等品)、フットスイッチ、専用立て、製品ユーザー登録のご案内

### 別売品

- ・ヘッドフォン(HPH-50/HPH-100/HPH-150)、フットペダル(FC3A)、フットスイッチ(FC4A/FC5)、キーボードスタンド(P-125用はL-125、P-121用はL-121)、ペダルユニット(LP-1)、電源アダプター(PA-150Bまたはヤマハ推奨の同等品)、ワイヤレスMIDIアダプター(UD-BT01)、キーボードソフトケース(P-125用はSC-KB850、P-121用はSC-KB750)

※本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

# 音色リスト(詳細版)

音色ボタン	バリエーション	音色名	音色紹介
PIANO (ピアノ)		グランドピアノ	コンサートグランドピアノからサンプリングされたこの音色は、弱いタッチから強いタッチまでのなめらかな音色変化が表現できます。また、ダンパーペダル使用時のペダル位置による音色変化、鍵盤を離れたタイミングによる微妙な発音など、さまざまな要素においてアコースティックピアノに極限まで近づけたぜいたくな音作りです。また、生ピアノ独特の、弦どうしの共鳴(ストリングレゾナンス)も再現しました。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
	1	ライブ グランド	明るい響きを持った広がりあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
	2	バラード グランド	温かみあるしっとりとしたピアノの音です。落ち着いた曲に合います。
	3	ブライツ グランド	ブライツなピアノの音です。クリアに音を目立たせたい曲に最適です。
E.PIANO (エレクトリックピアノ)		ステージ エレピ	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
	1	DX エレピ	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポピュラー音楽に最適です。
	2	ピンテージ エレピ	異なるタイプの電気ピアノの音です。ロック、ポピュラー音楽によく使われています。
	3	シンセピアノ	ポピュラー音楽でよく耳にするシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
ORGAN (オルガン)		ジャズ オルガン	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。別売のペダルユニット(LP-1B/LP-1WH)を接続すると、左ペダルの操作で、ロータリースピーカーの回転の速い/遅いを切り替えられます。
	1	ロック オルガン	明るくエッジのきいた電気オルガンの音です。ロックに最適です。
	2	オルガン プリンシパル	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
	3	オルガン トゥットティ	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルクラブラーの音です。
CLV./VIB. (クラビ/ビブラフォン)		ハーブシコード8'	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
	1	ハーブシコード8'+4'	オクターブ上の音がミックスされたハーブシコードの音です。より華やかさが感じられます。
	2	クラビコード	電磁ピックアップの付いた鍵盤式打弦楽器です。ファンキーなサウンドはブラックコンテンポラリー音楽などでおなじみです。その構造から、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
	3	ビブラフォン	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。強く弾くほど金属的な音になります。別売のペダルユニット(LP-1B/LP-1WH)を接続すると、左ペダルの操作で、ビブラートのオン/オフを切り替えられます。
STRINGS (ストリングス)		ストリングス	ステレオサンプリングでリアルな響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
	1	スロー ストリングス	立ち上がりの緩やかな弦楽アンサンブルの音です。ピアノや電子ピアノとのデュアルに向いています。
	2	クワイア	空間に広がる心和む合唱の音です。スローな曲で和音の広がりが得られます。
	3	シンセパッド	暖かくメロウで広がりのあるシンセ音です。アンサンブルのバックの通奏音に最適です。
+BASS (+ベース)		アコースティックベース	アップライトベースを指で弾く奏法の音です。ジャズやラテン音楽などによく用いられます。
	1	エレクトリックベース	エレクトリックベースの音です。ジャズ、ロック、ポピュラーなどの音楽によく用いられます。
	2	ベース & シンバル	シンバルの音を重ねてあります。ジャズのウォーキングベースに用いると効果的です。
	3	フレットレスベース	フレットレスベースの音です。ジャズ、フュージョンなどの音楽に向いています。

# 索引

<b>I</b>	
iPhone/iPad接続マニュアル	4
<b>M</b>	
MIDI入門	4
MIDIリファレンス	4
<b>U</b>	
USB TO HOST	9
USBオーディオインターフェース機能	24
<b>イ</b>	
インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)	11
<b>オ</b>	
オーディオルーブバック	24
オートパワーオフ	10
オクターブ	14
お知らせ音	11
音の高さ→チューニング、トランスポーズ	17
音色	13
音色デモ曲	18
音色リスト	13
音色リスト(詳細版)	26
音量	11, 16, 20
音量バランス	14
<b>カ</b>	
外部ソング	18
<b>キ</b>	
キー(調)	17
曲	18
<b>ク</b>	
クイックオペレーションガイド	4
クイックプレイ	19
クラシック名曲50選	18, 28
<b>コ</b>	
困ったときは	25
コンピューター	23
コンピューターとつなぐ	4
<b>サ</b>	
再生(音色デモ曲/クラシック名曲50選)	18
再生(ユーザーソング)	21
サウンドブースト	13
削除(ユーザーソング)	22
サステイン	12
<b>シ</b>	
初期化	24
<b>ス</b>	
ステレオフォニックオプティマイザー	11
スピーカー	23
スプリット	15
スマートデバイス	23
スマートピアニスト	23
<b>セ</b>	
接続	23
<b>ソ</b>	
ソステヌートペダル(まん中のペダル)	12
ソフトペダル(左のペダル)	12
ソング	18, 28
<b>タ</b>	
タッチ感度	17
端子	9
ダンパーペダル(右のペダル)	12
ダンパーレゾナンス	12
<b>チ</b>	
チューニング	17
<b>テ</b>	
テーブルEQ	13
デモ曲	18
デモ曲リスト	18
デュアル	14
デュオ	15
電源	10
電源アダプター	10
テンポ	16, 18, 20
<b>ト</b>	
トランスポーズ	17
取扱説明書	4
<b>ハ</b>	
パート再生	19
バックアップ	24
バリエーション	13
伴奏	20
<b>ヒ</b>	
拍子	16
<b>フ</b>	
付属品	4
フットスイッチ	12
譜面立て	4
<b>ヘ</b>	
ペダルユニット	12
ヘッドフォン	11
<b>マ</b>	
マスターボリューム	11
<b>メ</b>	
メトロノーム	16
<b>ユ</b>	
ユーザーソング	21
<b>リ</b>	
リズム	20
リズム一覧	28
リバーブ	17
<b>ロ</b>	
録音	21

# リスト

## クラシック名曲50選

番号	鍵盤	曲名	作曲者
<b>アレシジ曲</b>			
1	C2	カノン	J. バッヘルベル
2	C#2	G線上のアリア	J. S. バッハ
3	D2	主よ、人の望みの喜びよ	J. S. バッハ
4	D#2	きらきら星	トラディショナル
5	E2	ピアノソナタ 第17番 「テンペスト」第3楽章	L. v. ベートーヴェン
6	F2	歓喜の歌	L. v. ベートーヴェン
7	F#2	子守唄	F. P. シューベルト
8	G2	華麗なる大円舞曲	F. F. ショパン
9	G#2	英雄ポロネーズ	F. F. ショパン
10	A2	ラ・カンパネラ	F. リスト
11	A#2	愛のあいさつ	E. エルガー
12	B2	家路	A. ドヴォルザーク
13	C3	シシリエンヌ	G. U. フォーレ
14	C#3	月の光	C. A. ドビュッシー
15	D3	木星(組曲「惑星」)	G. ホルスト
<b>連弾曲</b>			
16	D#3	メヌエット(アイネ・クライネ・ナハトムジーク)	W. A. モーツァルト
17	E3	メヌエット 長調	L. v. ベートーヴェン
18	F3	トルコ行進曲	L. v. ベートーヴェン
19	F#3	ピアノ協奏曲 第1番 第2楽章	F. F. ショパン
20	G3	くるみ割り人形メドレー	P. I. チャイコフスキー
<b>原曲</b>			
21	G#3	前奏曲(平均律第1巻第1番)	J. S. バッハ
22	A3	メヌエット 長調	J. S. バッハ
23	A#3	ピアノソナタ 第15番 第1楽章	W. A. モーツァルト
24	B3	トルコ行進曲	W. A. モーツァルト
25	C4	ピアノソナタ 第8番「悲愴」 第2楽章	L. v. ベートーヴェン
26	C#4	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
27	D4	ピアノソナタ 第14番「月光」 第1楽章	L. v. ベートーヴェン
28*	D#4	即興曲 作品90 第2番	F. P. シューベルト
29	E4	春の歌	J. L. F. メンデルスゾーン
30	F4	幻想即興曲	F. F. ショパン
31	F#4	別れの曲	F. F. ショパン
32*	G4	革命のエチュード	F. F. ショパン
33*	G#4	小犬のワルツ	F. F. ショパン
34	A4	ノクターン 第2番 変ホ長調	F. F. ショパン
35	A#4	ノクターン 第20番 嬰ハ短調 [遺作]	F. F. ショパン
36	B4	トロイメライ	R. シューマン
37*	C5	舟歌	P. I. チャイコフスキー
38*	C#5	乙女の祈り	T. パダジェフスカ
39*	D5	愛の夢 第3番	F. リスト
40	D#5	花の歌	G. ランゲ
41	E5	ユーモレスク	A. ドヴォルザーク
42	F5	アリエッタ	E. H. グリーグ
43	F#5	タンゴ(スペインより)	I. アルベニス
44	G5	エンターテイナー	S. ジョプリン
45	G#5	メイプル・リーフ・ラグ	S. ジョプリン
46	A5	亜麻色の髪の乙女	C. A. ドビュッシー
47	A#5	アラベスク 第1番	C. A. ドビュッシー
48*	B5	ケーキウォーク	C. A. ドビュッシー
49*	C6	ジュトゥヴ	E. サティ
50	C#6	ジムノペディ 第1番	E. サティ

ソング番号の横にアスタリスク(\*)が付いている曲は、73鍵の楽器では鍵盤数が足りないため演奏できない箇所があります。

## リズム一覧

カテゴリー	番号	リズム名
ポップ&ロック	1	8ビート
	2	16ビート
	3	シャッフル1
	4	シャッフル2
	5	シャッフル3
	6	ゴスペル
	7	8ビートバラード
	8	6-8スローロック
ジャズ	9	ファストジャズ
	10	スロージャズ
	11	スイング
	12	ジャズワルツ
ラテン	13	サンバ
	14	ボサノバ
	15	ルンバ
	16	サルサ
キッズ&ホリデイ	17	キッズポップ
	18	6-8マーチ
	19	クリスマススイング
	20	クリスマス3-4

メモ

メモ

## 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

### ● 保証書

本製品には保証書が付いています。

「販売店印・お買い上げ日」が記入されている場合は、記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。記入されていない場合は、購入を証明する書類（領収書、納品書など）とあわせて、大切に保管してください。

### ● 保証期間

保証書をご覧ください。

### ● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

### ● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

### 有寿命部品の例

ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパットなど

### ● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

### ● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへご連絡ください。

### ● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

### ◆ 修理に関するお問い合わせ

#### ヤマハ修理ご相談センター



ナビダイヤル (全国共通番号)

**0570-012-808**

ナビダイヤル®

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。

通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830へおかけください。

受付  
FAX

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

東日本 (北海道/東北/関東/甲信越/東海) 03-5762-2125

西日本 (北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄) 06-6649-9340

### ◆ 修理品お持ち込み窓口

受付

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

\* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラクターミナル内14号棟A-5F FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ辻本ニッセイビル7F FAX 06-6649-9340

\*名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

◆ 電子ピアノの仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口



ナビダイヤル (全国共通番号)

**0570-006-808**

ナビダイヤル®

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。

通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-5272へおかけください。

受付

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

<https://jp.yamaha.com/support/>

◆ ウェブサイトのご案内

ヤマハ株式会社ホームページ	<a href="https://jp.yamaha.com/">https://jp.yamaha.com/</a>
ヤマハ ピアノ・電子ピアノサイト	<a href="https://jp.yamaha.com/piano/">https://jp.yamaha.com/piano/</a>
ヤマハ サポート・お問い合わせ	<a href="https://jp.yamaha.com/support/">https://jp.yamaha.com/support/</a>
ヤマハミュージックデータショップ	<a href="https://yamhamusicdata.jp/">https://yamhamusicdata.jp/</a>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

※ 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。